新潟県中越地震（平成16年10月）

水道産業新聞　2005年（平成17年）5月16日（月）版

新潟県中越地震（H16.10.23)による地滑りで数10m移動した浄水場（小千谷市塩殿簡易水道）

新潟県中越地震

「一番困ったのは水道」

～富士常葉大学・小川教授が調査～

風呂と洗濯ができない

昨年発生した新潟県中越地震で被災した小千谷市の住民を対象に、ライフラインに関するアンケート調査が実施されており、それによると各ライフラインの停止による困窮度は、水道が突出して「困った」という答えが寄せられた一方、飲料水で困ったという回答は低く、今後の耐震化を考える上で、示唆に富む結果となっている。調査は富士常葉大学環境防災学部の小川雄二郎教授によるもので、今後の解析が注目される。

飲料水は応急給水で確保

アンケートは小千谷市の被災住民80世帯を対象とし、断水1週間地域（25件）、断水3～4週間地域（25件）、断水6週間地域（30件）の住民に、すべて面談し聞き取る方法で、今年2月に実施された。回答率は100%、質問項目は電気、ガス、水道、下水道、通信（電話）、公共交通、道路の7つのライフライン。これに世帯主の職業や家族の人数、水道関係では井戸の有無や日頃のペットボトルの購入頻度を加え、相互の関連を分析している。現在作業が続けられているが、途中集計において、被災の実態と住民が何を求めているかが明らかにされつつある。

まず、7つのライフラインのうち、当該地域で機能が100%停止したのは水道と電気で、道路、ガス、通信がこれに続いて70%以上が機能停止したと応えている。機能停止期間を明らかにした上で、生活する上での困難の程度（5段階）は、水道の停止を「非常に困った」としたのは57件・71%でトップだった。さらに、7ライフラインのうち、困った順位については、水道を1位に挙げたのが42件・53%でこれも最も多く、上位3位までに挙げた割合も水道が95%、続いて電気83%と答えており、水道停止により何が困ったかについては、風呂と洗濯に「非常に困った」「かなり困った」の割合がそれぞれ90%、81%と高く、飲料水が「非常に困った」「かなり困った」は31%に止まっている。飲料水の確保の手段として、73件・91%が応急給水と答えており、ペットボトルは5件・6%に過ぎなかった。大規模な震災後の精密なアンケート調査は過去に例が無く、今後の解析が注目される。

小川教授